

「漠然とした迷い」に向き合いつゝと

金井 彩

自らの保育を振り返る時、「こうすれば良かった」と答えがわかる反省はスラスラとでる。難しいのが「こうしたから駄目だった、でも、どうすれば良かったかわからぬ」という反省。それでも、駄目だと分かってないので、別な方法を、あれこれと考えることができ。私にとって一番やっかいなのが、「これでいいのだろうか」というもやもやした迷い。更に悪いことに、漠

然としているので、なかなか表面に現れず、問題に向き合うことすらできない。心の奥の方に流れる迷いを引きずりながら保育を続け、いつのまにか、気にならなくなっていることもある。何に迷ったのかも、なぜ解決したかも明らかにしないまま終わることの方がが多い。そして、同じような場面でまた迷いながら保育をしているよう思う。

今回とりあげるA子への援助も、漠然と迷いを抱えていることが多かつた。A子の記録を振り返り、どこで自分の迷いに向き合えば良かつたか、援助の方向性を決めたポイントが、どこかにあつたのではないか考えてみたい。

A子（四歳新人児）は、入園当初から、言葉・動きが殆どなく、好きな遊びを自分から選択することがなかつた。保護者と離れることは嫌がらず、朝の支度などするべきことはしつかりとすませることができる。話しかけても応えはなく、泣いたり怒つたりというマイナスの表現すらないので、心の動きが全く読めなかつた。

（◇は私の日々の記録）

◇四月十六日 A子 製作コーナーに座ることもなく、立つたまま周囲を見ている。笑顔なし。園庭に誘うと、うなづく。私の手を取つて外に出る。私が差し出

すと、泥の型を返すことを一、三回する。私が何かの拍子に手を離しても、私の手を要求せず、その場で突つ立つて固まってしまう。声もださない。砂、泥に触れるのは、平氣である。片付けの時、洗いやさん（水洗い）を黙々としている。集まりの時には、皆と一緒にカエルになつてピヨンピヨン跳ねる。特に笑顔もないが、体は動き出している。

この頃、副園長も「目がパチパチつて瞬きする時はイエスの意味みたいよ」など、アドバイスをくれる。色々に働きかけながら「A子の感情表現を探る」という方向性がはつきりしていた。

◇四月二十一日 全体の記録より：中央テラスに設定した巧技台・滑り台の所で、私が踏切を作り子ども達にインタビュをしてから通す。子ども達も照れたりしながら応え、とても嬉しそうに繰り返す。教師とつながる遊びとして有効に思う。A子：私が巧技台に行つ

ている間、保育室で友達の動きを見ていた。私と一緒に動きたせないのだから、私が中央テラスに行く時にA子も連れていけばよかつた。

一人一人が教師と関わって楽しむ遊びが、A子にとつても楽しいものだらうと予想している。このような遊びに積極的に誘い、教師と関わって遊ぶ楽しさを十分味わえることが、A子にとつて必要だと明確になつてゐる。実態は、そうとわかつていながらA子とじっくりつきあえない日が続くのだが。

◇五月二日 私と外へ。時々手を離すが、そこで固まつて立つてゐるのではなく、私を追いかけてきた。進歩？自分なりに選択をして動き出そうとしている？

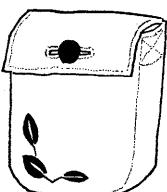
私が手を離すとついてこようとするA子の姿を「進歩？」と記録している。私と一緒にいたい気持ちの表れ

と捉えると、A子が自ら動き出した「進歩」と読みとつていいだろう。逆に、私がいないと不安で、その場所に

いられなくなつたのだと解釈する
と「後退」とも考えられる。A子
と一緒にいて、そのどちらと捉え
るか判断のつかない感覚が「？」
と記させたのだろうか。しかし、

どちらにしても、A子の動きを「担任といたいという選択」として、ありのまま受け止めていれば、「A子と私の遊び」を充実させようと気持ちを固められたはずである。しかし、私は、自分の「？」に向き合えなかつた。A子が私についてくるようになり、何かメッセージを感じるが、他の子や遊びが気になつて付き合いきれないと感じるが、他にジレンマが、判断をさけた「？」に含まれているように思う。

◇五月二十三日 私と一緒にいるが、気持ちは園庭に向いているようだ。（中略）自分から、色水のほうへいく。M子が「何？」とのつてきてくれたので、A子に



「やり方教えてあげて」というと、M子を気にしながら花の方へ向かう。（中略）、M子とA子が手をつない

でパンジーの方へ向かっている。A子も笑顔がでている。きっとM子の方から手をつないだのだろう。昨日のことも覚えていて、「いれものほしい」など、たくさん要求した。

◇五月三十日 絵の具を一通りすると、次へのきつかけが見当たらない。私もつきあえずにはいるが、色水を始めた子と一緒に動いていたり、草花をじっとみていたり、地面に絵を描いていたり、と自分の興味に体が動き出している様子。午後はアスレチック・鬼ごっこやることが決まっていて分かりやすいこともあるからか、「行つてきていいよ」と声をかけると、動き出す。午後のかごめかごめをしている場面では、「だれだ？」

と言えたとのこと（他教師の報告）。歌を歌うときも、大きな口を開けて気持ちよさそうに歌っている。好きな遊び、ごっこ遊びの中で、友達とつながれるよう

に、次の段階を探りたい。

体の硬さが抜けてきたこと、歌を気持ちよさそうに歌えること、鬼ごっこやアスレチックを自ら選択し、教師や友達と同じ動きを十分楽しんでいること、友達に誘われて表情が和らいでいること……A子が自ら動き出し充実したこの時期に、なぜ「次の段階を探りたい」のだろう？と、自分の記録ながら思わずにはいられない。実際、私が行つたことは、行く先々の遊びにA子を仲間に入りさせようとするものだった。とにかくどこかに入つて遊んでほしい、という思いだけが先行していた。「次の段階を探る」とわかつたつもりにして、A子の実態と自らの漠然とした不安から目をそらし、A子への援助の方向性はここで失われてしまつたように感じる。

◇六月十三日（略）遊びの中では、私の服をもつてついて回る。ちようちよごっこを見るとき一番表情が緩むが、私が誘うと、首を横にふる。私について回るの

で、自分で入りたいと思う前に動いてしまうことが多
いだろう。

好きな遊びの中では、私の服を持つてついて回るだけ
で一日がすぎてしまうようになつた。この頃から、「私
が動くからまづいのでは」という思いがはつきりしだし
ている。「今のA子は充実していない」と意識して向き
合い出した。

◇六月二十四日 私について動く。病院ごっこを見てい
る時、表情が柔らかい。道具を渡してみるが、首を横
に振る。思いをだせるタイミングがつかめない原因
は、私が動くと一緒にA子も動いてしまうことだろ
う。A子が動き出すまで、私も動かないという覚悟を
決めた一日が必要なのではないか。

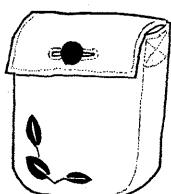
ようやく私の覚悟が、記録の中ではつきり書き出され
た。実際は、私が先に動くのが、「あっちに行くね、
Aちゃんも行く?」「うん」というやりとりを重ね、

A子が選択したように動くとい
う形をとつた。

◇七月八日 私とH子が庭に机を
だし、準備し始めたまま」とに
A子が入る。私が抜けても留まり、おしゃべりしながら
続いている。(中略) Y子がびっくりしたように報

告しにくる。「A子ちゃん、話したよ!」喜んで女の
子達が取り組んで話しかけるのに、照れたように笑い
ながらも困っている様子はない。午前中ずっと、そこ
で泥料理を作ったり、食べたりしながらすごす。私の
ところには、「いす(欲しい)」など、いつもと変わら
ない小さな遠慮気味な声で話す。

突然、友達と会話をしながら遊び出されたので、周囲も
私も驚いた。そのように始まるとは予想できなかつた。
本当に嬉しい反面、A子の変化が全く読めないでいたこ
とも突きつけられた。



「A子のその後」期待して始まつた二学期だつたが、自分からしたい遊びが見つけられない日の方が多かつた。一方で、楽しい時には、自然に、その気持ちが動きや表情で表れていた。そんな姿に支えられて、「これだけの表現ができるようになったA子。もつと変わりたい」というメッセージは、はつきりわかる形でなされるだろう、あせらずに待とう」と思えていた。様々な関わり方を試し援助を探りながらも、私の不安でA子をひっぱらないようにしよう、ということだけははつきりしていた。しかし、A子からの思いや願いを確実に受け取つた実感のないまま、二学期最後にA子の転園が決まつた。いたらなかつた援助に今でも心残りがある。

とあつても、踏みとどまつて迷いや不安の原因を考えようとはしていい。あるいは、わかつたつもりにして、消えない不安や迷いからは目をそらしている。これらのことが、振り返りを通して、私の癖として感じたことである。

それならば、私が漠然と不安や迷いを感じたり、「?」を使いたくなつた時こそ、自分の保育を丁寧に見直し、意識化する時期がきていると捉えれば良いのではない。何か子どもからのメッセージを受け取つてるのではないだろうか、どの場面の、どの姿が気になつているのか?じつくりと付き合いたい子に時間を割けないジレンマが不安を作つてゐるのではないか?……もし次があるならば、A子のメッセージを受け取るチャンスを逃さないようだ。

「振り返りを通して」その子の充実感を感じ取れない時や、思いや願いがつかみきれない時には、私は自分の保育に漠然と迷いを感じてゐる。そういう、記録に「?」

(東京学芸大学教育学部附属幼稚園小金井園舎)